

次のA～Kの文章とあ～くのグラフを見て、あとの問いに答えなさい。

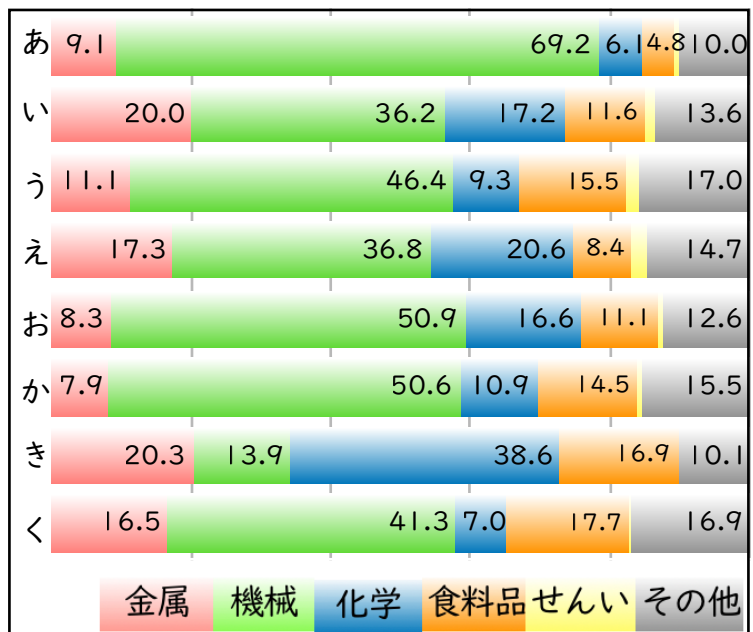
- A 1990年代までは出荷額日本一であり、印刷・出版業の割合が高い
- B 1901年に操業開始した官営製鉄所①を中心に発達した
- C 昭和初期には日本最大の工業地帯で、中小工場の割合が高い
- D 自動車・繊維・陶磁器などの生産がさかんで、現在は日本最大の工業地帯
- E 塩田や軍用地の跡地を整備して、石油化学コンビナートが作られた
- F 隣接する工業地帯からの移転で発展し、機械工業より化学工業がさかん
- G 製紙・パルプ工業や楽器・オートバイの生産②が日本一
- H かつては養蚕業がさかんで、高速道路網や工業団地の整備で発展した
- I 砂浜に造られた掘込み港を中心に発展した
- J 地元の農畜産業・漁業と連携し食料品工業がさかん
- K 多くの伝統的工芸品や洋食器・刃物・めがね枠・製菓などの地場産業で知られる

(1) A～Hの文章が示す工業地帯・地域のグラフを右のあ～くから選び記号で答えなさい。

(2) I～Kの工業地域の名称を答えなさい。

(3) 官営製鉄所①の名前を答えなさい。

(4) 楽器・オートバイの生産②で知られる都市名を答えなさい。



(5) A～Gの工業地帯・地域が含まれる、工業が特にさかんな地域を6文字で答えなさい。

(1) A	(1) B	(1) C	(1) D
(1) E	(1) F	(1) G	(1) H
(2) I	工業地域	(2) J	工業地域
(2) K	工業地域	(3)	
(4)	市	(5)	

(1) Aは「出版・印刷」がキーワードになる、京浜工業地帯です。グラフを選ぶのは非常に難しく、他のグラフを選んでからの消去法で選びます。  
 Bは「官営製鉄所」から北九州工業地帯とわかります。化学の割合が低く、金属・食料品の割合が高い、くのグラフです。  
 Cは「中小工場」から、阪神工業地帯です。金属の割合が高い、いのグラフです。  
 Dは「日本最大」の中京工業地帯です。機械工業が7割近い、あのグラフです。  
 Eは「塩田」のキーワードから、瀬戸内工業地域です。化学工業の割合が20%台の、えのグラフです。  
 Fは「機械より化学」の京葉工業地域です。化学工業の割合が高い、きのグラフです。  
 Gは「楽器・オートバイ」から東海工業地域です。これもグラフを選ぶのは難しいので後に回します。  
 Hは「養蚕業」「工業団地」から関東内陸工業地域です。  
 ここまで選んで残るグラフはう、お、か、決まらないのが京浜、関東内陸、東海です。この3つの中では、化学工業の割合が高い、おのグラフが京浜工業地帯です。東海は主要工業地域の中では最も金属の割合が小さいので、かのグラフです。残ったグラフ、うが関東内陸になります。

(2) Iは「掘込み港」から鹿島臨海工業地域です。  
 Jは「地元食材による食料品工業」なので北海道工業地域です。  
 Kは九谷焼・輪島塗など「伝統的工芸品」や燕の「洋食器」、三条の「刃物」、鯖江の「めがね枠」、富山の「製菓」で北陸工業地域です。

(3) 1901年に操業開始した官営製鉄所は八幡製鉄所です。

(4) 楽器・オートバイの生産で知られるのは「ヤマハ」のある浜松市です。

(5) A~Gの工業地帯・地域はすべて「太平洋ベルト」に含まれています。

(1) A お	(1) B く	(1) C い	(1) D あ
(1) E え	(1) F き	(1) G か	(1) H う
(2) I 鹿島臨海 工業地域	(2) J 北海道 工業地域		
(2) K 北陸 工業地域	(3) 八幡製鉄所		
(4) 浜松 市	(5) 太平洋ベルト		